

みどり戦略の本音

株式会社 t e r a n o v a

石川 法泰

1. 自己紹介ー安城市について

安城市は、日本のデンマークと呼ばれるほど、農業が盛んな地域として発展してきた。近隣の市町村を含め人口が多いことから、消費地がとても近くにあることが特徴である。




顔の見える範囲で野菜の販売をしていきたい！

2. 事業概要

会社名	株式会社 t e r a n o v a
所在地	愛知県安城市木戸町南屋敷26番地
設立年月日	令和3年1月6日
従業員数	役員2名、社員2名、パート6名
取扱品目	露地野菜全般（年間50種類ほど）
耕作面積	3.5ha
販売方法	<ul style="list-style-type: none">・ 業者販売（食品配達事業者、小売業者、卸売業者）・ 個人販売（マルシェ、野菜セット販売）・ 委託販売（産直）・ 飲食店販売

→ 詳しくは、「**安城 てらのば**」で検索





2. 事業概要—経営理念

私たち「てらのば」は、そだちの場、つどいの場、つながる場となります

【そだちの場】


美味しいお野菜でお客様の食卓を豊かにし、皆さまの成長に寄り添います
スタッフが成長できる機会、およびその家族が健やかに成長できる環境を提供します

【つどいの場】

様々な人が集い、交流できる場となります
多種多様なスタッフが集まる組織となります

【つながる場】

地域とのつながり、自然とのつながりが感じられる場になります
次世代につなげられる事業を行います



3. 直面してきた課題

1. 栽培

- 研修先（茨城県）での栽培方法のミスマッチ
- 5月から10月にかけての草管理
- 9月、10月の虫害対策

2. 販売

- 収量・品質の不安定さから、小売店などへの営業がやりづらい
- 直売所において、豊作時は他の生産者の販売価格が極端に低い
- 高単価で多く販売することの難しさ

3. 経営環境

- 夏場の異常な高温
- 最低賃金の上昇に伴う人件費の増加
- 農業資材の高騰



4. みどり戦略の本音

2050年までに有機農業の割合を25%までに引き上げる、という目標値に目が行きがちであった。

実際は、農業の生産現場に関わる目標値はこのほかに、

- ・ 農林水産業の二酸化炭素ゼロエミッション化
- ・ 化学農薬使用量の50%削減
- ・ 化学肥料使用量の30%削減

が挙げられている。

その背景には、

- ・ 地球温暖化対策や生物多様性保全など、食料システムにおける環境問題への世界的な対応が進展している
- ・ 国内の気候変動の影響や資材調達の不安定化が年々深刻化していることが挙げられている。



4. みどり戦略の本音

地球温暖化対策、生物多様性保全、資材調達の安定化がみどり戦略の目的とするならば、有機農業の割合を25%まで引き上げるという目標は手段の一つであり、別の手段で目的が達成可能ならば有機農業にこだわる必要はないのではないか。

仮に弊社の圃場面積を3.5haから約25%引き上げて4.4haに拡大したときに考えられる課題は以下のとおり。

- ・ 栽培：除草、防除の負担増加
→人件費負担が重く、新たに雇用することに躊躇してしまう
- ・ 販売：出荷調整業務時間が増加
生産物の増加分の販売先
- ・ 経営：ランニングコストが増加し、不作・作型の失敗時のダメージ大